

△セ・リーグ 14日)	神宮
(阪神10勝7敗) 阪神 001310011 7	宮
△勝 ヤクルト11000010 3	
△勝 藤浪20試合10勝5敗	
△勝 爪根52試合2勝2敗3S	
△勝 古野25試合4勝3敗	
△本 江越5号①(古野)	
(D・N AII勝6敗) マツダ	
De N 0300010000 4	
△本 島400001300× 8	
△勝 戸田26試合3勝	
△勝 砂田8試合2勝3敗	
△本 丸15号③(高橋)	
(巨人10勝7敗1分) ナゴド	
巨 11013000020 7	
中 日 010010000 2	
△勝 ポレグ18試合7勝5敗	
△本 ネイラー3試合1勝1敗	
(パ・リーグ 14日)	
(日本ハム12勝10敗) コボス	
日ハム 000001201 4	
業 天 00000001100 2	
△勝 吉川19試合9勝5敗	
△勝 増井43試合1敗30S	
△勝 レイ17試合5勝4敗	
△本 後藤9号①(白村)	
(ロッテ10勝7敗) ほっと	
ロッテ 000000120 3	
オリックス101000000 2	
△勝 湧井20試合10勝7敗	
△S 西野43試合1勝2敗6S	
△敗 岸田33試合3勝3敗	
△本 デスペイネ15号①(松集)	
(ソフト12勝5敗2分) ヤフオ	
西 武 001010000 2	
ソフト 32001002× 8	
△勝 パンデハーキ9試合6勝	
△敗 十亀18試合7勝7敗	
△本 柳田24号①(十亀) 松田25	
号②(十亀)	

阪神・藤浪10勝、松坂以来の快挙
高校出入団から3年2桁

阪神・藤浪10勝、松坂以来の快挙

高校出入団から3年2桁

して7回2失点でセ・リーグ最速の10勝目を挙げた。3年連続で2桁勝利をマークした。高校出入団1年目か

は昨年1勝6敗で、今季は1勝8敗。今季

は昨年1勝6敗で、

被殺が三三刑に服したい

今年中にも陪審裁判、判決か

代理処罰6件目に進展

東京都葛飾区で2001年6月、日系人の男2人が暴力団員に雇われ、日本人男性の自宅に押し入り拳銃で射殺し、妻に重傷を負わせた事件の被告人尋問が11日午後、聖市のパラ・ソンダ刑裁判所で行われた。この日出廷し尋問を受けたクリスチアーノ・イトウ被告(38)は13年ほどテカセギとして日本に住み、犯行後に帰任。現在は聖州アンドラジーナの刑務所に収監されている。同被告は公訴事実を認め、「正しい位置から人生を生きたい。家族もいる」と語った。

近郊で生活していた。3年ほど前、妻は現場を去った。

妻の女性についても、「殺すつもりは無かつた」とし、被害者についても、「名前も覚えていない。事前に写真を見せられただけで、知らない人が殺された」とした。

2人は現場を去った。その後、フクダ被告は「夫婦で一緒に住み、同じソニーの工場で働いていた」と説明。ブラジル人の友人2人の紹介で、日本人に述べ、「引き受けたからには、後に引けなかつた」。

2人は週間くらいで結局引き受けることになった。たぶん金が理由だった。2人は週末になる。

2人は週末になる。

“佛立聖地”に宝塔完成



佛立聖地寶塔開眼法要

佛立聖地寶塔開眼法要

この度のブラジル巡教において、最大の行事であつた、ブラジル佛立聖地の今回造営された宝殿御本尊の開眼法要に参列し、そのご奉公を成し終え、實に感慨ひとしおのものがござります。本日は、ブラジル各地からこの聖地に参集された皆様方と共にその喜びを共にしたいと存じます。

さて、ブラジル本門佛立宗は今から一〇七年前の日系人の移民とともに始まりました。いうまでもなく東京高寺所属信徒であつた水野龍氏が第四世講有日教上人に願い出て、茨木現樹、のちの日水上人と共に、第一回移民船笠戸丸でサンクトス港に上陸した事にはじまります。

移民の初期の方々の苦難はいかばかりか、原始林を伐採してコーヒー農園に生まれかわらせる。想像を絶する苦労です。御題目口唱の経力を感得されて、徐々にご弘通も進展、今年は第二次世界大戦が終結して七十年ですが、戦前は實に日本人の孤軍奮闘のたまものであつたのです。

戦後、第十一世講有日嫡上人渡伯により、ご奉公が再開されますが、第十五世講有日辰上人、第十七世講有日地上人等の英断により、日本よりの派遣教務体制が確立し、御牧度藤本日度、横谷日法華経本門八品が説かれた虚空会に登場するのが累積があり、現在のブラジル出身教務の体制に引き継がれて來たのであります。

小職も四十数年前、まだ二十代後半の頃に教学講師として派遣され、まだジャルジンダサウデにあつた日教寺で教師研修会、リンス大宣寺、モジダスクルーゼスの隆昌寺、プレシデンチブルデンテの日扇寺等で宗徒研修会を開催するために、夜行バスで巡回ご奉公したこととなつかしく思い出しています。

その頃にお出会いいた方々が、今日も参列されているわけで、今昔の感ひとしおのものがござります。

今から三千年前、インドに釈尊がご降誕され一代仏教を説かれました。最後八力年に真實經法華経を説かれたのであります。法華経は二廻三会と申しまして、インドの靈鷲山と虎尾山で説かれたのであります。

法華経本門八品が説かれた虚空会に登場するのが宝塔で、まさにブラジル佛立聖地の宝塔はそれを模しているといつてもいいでしよう。宝塔のそびえる

大地はいうまでもなく靈鷲山です。法華經如來寿量品には、「一心に仏を見奉らんと欲して自ら身命を惜しまざれば、時に我及び衆僧俱に靈鷲山に出づ」と説かれてています。お祖師さまは、この御文にある靈鷲山について「日蓮等の類、南無妙法蓮華經と唱ふる者の住所を説くなり」とご妙判下されていきます。今、現に私共が異口同音に御題目を唱え奉つたこの聖地、インドでもなければ日本でもない、遠く隔たつたブラジルではあります、この場所は釈迦牟尼佛が諸仏諸天善神と共にお出ましいただく靈鷲山そのものであります。私共は異体同心で高祖日蓮大菩薩の一天四海皆帰妙法の祖願達成のため精進させていただけ、それがいうまでもなく佛立開導日扇聖人御生誕二百年慶讚ご奉公になることを銘記して、われも唱え人にもすすめる教化折伏の菩薩行に精進させていただくことが大事大切であります。

日本から駆けつけた信徒を含む総勢約100人が見つめる中、ジエオルジ市議より名譽市民の証として日開上人に賞状が手渡されると大きな拍手が沸き起つた。日開上人は「非常に名譽なことで胸に迫り来るものがある。今回ブルジルで法要できるのも、州や市の皆様のおかげ。これからも世界平和のため務める」と話した。ジエオルジ市議は自ら

平和のためには何よりも
信仰が大切。今後も自ら
と共に皆さんのために「良
くしていく」と挨拶した。
日開上人からジョヨー
州議に対し、伯国に
ける同宗への貢献を感
する表敬状が贈られ、
び大きな拍手が沸き
こつた。

また式後の夕食会
は、地元のサンバチー
のショーが披露され、
やかに授章を祝福す
共に来場者の親睦を深
めた。

お世話になりました。お忙なところ、御心配なく、お手数をおかけして、ご迷惑をおかけして、心から感謝いたしました。

（70、横浜）は、「宝塔は写真で見るよりずつとすごかつた。ブランドでは初代の苦勞が語り継がれているので、後繼者が頑張ろうとしているのだと思う。日本に帰つたら皆に話したいことが山ほどある！」と笑顔を見せた。また、同じ寺の初代住職たつた清水博士上人が昭和30年に

世界平 山内やまうち

ブラジルにおける本門佛立宗の初祖・茨木日水上人の悲願が結実しようとしている。2011年、本門佛立宗（コレニア教伯教区長）は、全国信者の淨財で聖州タピライ市にある自然保護区に76アルケーブルの土地を購入し、寺や福祉・教育施設を併設する“佛立聖地”を建設すると発表した。今年、同事業の嚆矢となる宝塔が完成し、先月26日に日本から第25世講有・山内開上人を招いて落慶式が執り行われた。終戦70周年を記念し、広島市公認「平和の鐘」も設置。日本宗務本庁の関係者や信徒約30人はじめミナス、サンタカタリーナ、マットグロッソなど全伯各地から信者約1500人が集い、聖地造成の幕開けを祝つた。

晴天に恵んで変わった
湖の対岸に信者と両国の
僧侶が集う中、山内上人
が本尊にヘリコプターで
接近し、空から華々しく
開眼法要を行なつた。
広島市に「平和の鐘」

市長は挨拶で
「これから毎年
8月5日、タビ
ライ市から聖地
までを市民と
行進し、原爆投下時間に
合わせて法要する」と伝

Iluminação para Todos!

O d o s h i
K y o u h a k u
C o r r e i a

Arigatougozaimassu.
É o ensinamento do Sutra Lótus, a
prece da humanidade, a bênção
que a Imagem Sagrada nos oferece
e que o Sumo Pontífice nos

promove. De nada valeria viver se não fosse por esse objetivo de vida. A verdade é para sempre, igual para todos, e de fato, somente ela nos salva eternamente. E é isso que a oração Sagrada Namumyouhouhoureguekyou representa. Não existem palavras suficientes para demonstrar minha gratidão a sua Santidade Yamauchi Nichikai Shounin, ao Prefeito Araldo Todesco e a cidade de Tapiraí, ao Prefeito de Hiroshima Matsui Kazumi, ao Presidente da Associação Mundial do Sino da Paz, Kimitaka Kurihara, assim como todas as cidades, parlamentares e cidadãos que nos apoiaram e que ainda nos apoiarão. A todos os fiéis, aos Presidentes, do Budismo Primordial do Brasil, Sérgio Uematsu e do Santuário Ecológico, Elcio Katagi, a todos os templos do Japão e de todo o mundo, aos jovens e crianças e a todos os bispos e sacerdotes, o meu, o nosso, muito obrigado. Por essa maravilhosa a bênção podemos nos orgulhar agora dizer que o Budismo Primordial possui uma imensa área para cultivar o humanismo, a paz, o equilíbrio físico e espiritual, realizar退iros, eventos, preservar a natureza e servir a todas as comunidades. Enfim, objetivamos edificar a Terra Pura pregada por Buda. E o solo mais fértil que existe para isso é a prática da fé que promove a paz.

O mundo avança e as coisas evoluem, mas dessas nossas raízes não podemos esquecer, largar, nem deixá-las enfraquecerem, pois são elas que nos garantem. Por isso tudo ainda teremos muito a fazer para deixarmos esse tesouro inesgotável para as futuras gerações. Tenho certeza de que o Mestre Fundador do Budismo no Brasil, Ibaragui Nissui Shounin, está muito feliz por todos, e que as almas de todos os nossos antepassados, de todas as vítimas de Hiroshima e de todas as pessoas vitimadas pelas falta de paz de espírito e equilíbrio das pessoas, poderão se sentir mais lenificadas, pois esse será o nosso compromisso, para sempre. Rogo a todos o contínuo apoio ao nosso Santuário Ecológico SEAMA, do Budismo Primordial. O som da oração, do Sino e da paz ecoará no coração de cada um trazendo uma iluminação maior para todos.

15º Arcebispo da Honmon Butsuryu-Shu do Brasil,
Nitivulli Correia

